

# 木立の下で散歩が楽しめる、 木立から涼風が吹く工場でありたい

株式会社マイスター (山形県寒河江市)

1976年、山形県河北町で産声を上げた株式会社マイスターは、創業以来「品質第一」をモットーとして、山形のモノづくりを牽引する企業です。2008年の新工場操業を契機に、持続可能な経営体制の強化とモノづくり製造業としての社会的責任を果たす自立した経営体制を目指す同社、環境マネジメントの一環としてエコアクション21の認証を同年に取得、積極的に環境負荷軽減を図っています。

会社構内に畑を区画、社員のみなさんで耕作から収穫まで行うなど、ユニークな取り組みもされている同社を訪問、エコアクション21導入当時の苦労や導入後の効果など、興味深いお話を伺いました。



代表取締役 高井 作

## 契機

### ようやく「日本的な環境マネジメントシステム」に出会えたんです

「昔から山登りが好きで、ここ山形で会社を始めたのも、この自然豊かな環境に惹かれたからです」と話す高井社長。「草木塔」という、自然の中に生かされているという東北独自の考え方に共感される社長は、自然と対峙するのではなくて共生、同化するような、日本的な環境マネジメントシステムがあればと思っていたそうです。そこに登場したのがエコアクション21でした。地球規模での環境問題が叫ばれる中、危機意識が芽生えてきて、企業に何ができるのか？何をすべきか？と考え始めていた頃だと言います。「巡り会うタイミングが良かったのかもしれないね。それがきっかけになりましたから」。

### エコアクション21の輪郭をつかむのが大変でした

現場ではとにかく「エコアクション21の輪郭をつかむ」ことに苦労したそうです。

環境に関する活動は、省エネや節電やら家でもやっていることですからわかります。それが、「環境マネジメントシステム」となると、ガイドラインを理解したり、関連する法律に関する知識が必要になってきます。インターネットを検索すれば、環境に関する法律がずらっと出てくる。それはいいのですが、どの部分が私どもに関係してくるのかわからない。そんなときに助けていただいたのが、地域事務局の方々です。いろいろとアドバイスをもらったり、環境マネジメントの勉強会を開いていただいたり…おかげで認証の取得がスムーズにできたと感謝しています。

## 苦労

## 効果

### お客さまからの信頼が増した、そう感じています

エコアクション21を取得していることで、お客さまの信頼が増したように感じます。環境マネジメントシステムの国内標準、公的な認証ですから、「私どもはエコアクション21を取得、企業として環境活動を実践しています」と、堂々と言うことができます。この「堂々と言える」ことが大事だと思います。同じことをしていても、こうした公的な認証を取得しているのと取得していないのでは、まったく違います。企業としては「重さ」みたいなものが違ってくると感じます。

株式会社マイスター (代表取締役 高井 作)

山形県寒河江市中央工業団地156番地1

創 立：1976年7月1日

資 本 金：2000万円

事業内容：切削工具・特殊工具の加工・製造  
精密治工具製作 精密機械部品製作



EA21認証・登録番号：0000647

(最新の環境活動レポートは <http://www.ea21.jp/list/pdf/0000647.pdf> をご覧ください)

## 環境負荷削減へのユニークな取り組み



### リサイクルでレアメタルを安定供給

超硬工具に使われるタングステン[レアメタル]のひとつ。その原料は、輸入に頼っているのが現状です。株式会社マイスターでは、このタングステンをはじめ、これまで棄てられていた使用済み切削工具を回収、原料粉末に再資源化して再び製品へ生まれ変わらせています。「もったいない」の心から始まった同社のリサイクル活動は今、レアメタルの高騰を背景に、原材料の安定的な確保策として注目、期待されています。

### 工場全体が緑を守る構造に

2008年、寒河江中央工業団地に竣工した新工場は、設計段階から緑化を意識したつくりになっています。屋上緑化の施設はその最たるもので、最新の緑化設備を採用して、温暖効果ガスの削減と景観保全の両立を実現、従業員の眼にも優しい憩いの空間を作り上げています。さらに、敷地内の樹木の育成に力を注ぐことで、散歩を楽しめる工場、木立からの涼しい風が吹く工場をめざしています。



### 期待すること

認証を取得しても、それで儲かるわけでもないし、手間もかかる。この景気で、本業が手一杯というのが私どものような規模の会社の本音だと思います。その消極的な部分を払拭するには、エコアクション21がもっと認知されて、広まってくれるのが一番です。それも取得する側だけでなく、私どもに発注される大手企業様に、できればISOだけではなくてエコアクション21も認めていただければ、取得する意味や価値がグンと上がってくると思います。

### 取得のヒント

社長が、自然や環境を大事にする人でしたから、「エコアクション21」導入に際しても、社員も前向きに取り組むことができました。でなければ、一担当者が「エコアクション21をやりたい！」とはなかなか言えるものじゃないです。だから、説明会などに企業のトップの方がもっと参加されて、エコアクション21を理解する機会を持ってもらいたいとも思いますが、その気になればトップダウンで進めることもできるし、審査人にも気軽にいろいろ質問していける。エコアクション21は中小にこそ向いているのではないのでしょうか。

## エコアクション21のあれこれ

### 県や市に期待すること

エコアクション21を推進される立場の県とか市には、取得までの道筋であるとか、実際に何から始めればよいのか、環境の専門的な観点から取り組み方などの具体的なイメージを見せてもらえるとうれしいですね。やはり「御上」の言うこと、やることには関心が集まりますし、県とか市が率先しているいろいろなことをしてもらえれば、エコアクション21が広まっていく大きな力になると思います。

### 山形エコアクション21に思うこと

子どもの頃、泳いだり魚を捕まえたりして遊んだ記憶が、はっきりと残っています。それを自分の子どもたちに伝えられなかったのは、今でも残念だと思っています。だから「最上川をきれいに」と言われてしまうと、県民として気持ちが動きますね。漠然と「地域の清掃協力」と言われてもピンと来ない。地域密着という意味でも、山形エコアクション21はいいアイデアだと思います。

### 担当審査人からひと言

作業着に身を包み真剣な表情で切削マシンを操る若い女性。彼女たちに話を聞くと例外なく、「仕事楽しい」、「やりがいがある」、「結婚して子どもができて安心して働ける」などと笑顔で答えてくれます。60歳を越えたベテラン職人さんも健在です。ここは、縦割り組織を排除し、老若男女が協力し合って働く「結い」工房。「人を大切に、その人の能力を最大限に発揮できる職場環境を形成する」これこそ、究極のエコ活動なのではないでしょうか。我々が忘れてしまっていた何か大切なことを思い出させてくれるような会社です。